

希望坂(北中だより)

第9号 令和2年8月26日

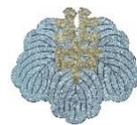
みやき町立北茂安中学校 校長 森田 直樹

学校教育目標

「知性・感性・耐性」を
自らたかめる生徒の育成

〒849-0113 みやき町大字東尾 4435

TEL:0942-89-2008 Fax:89-2079



◇8月17日から2学期開始◇

今年度は、新型コロナウイルスの影響で臨時休業した分を補うために、例年より早い2学期の始まりとなりました。事件や事故に遭ったという生徒もなく、円滑な2学期のスタートとなりました。



はやぶさ1号 はやぶさ2号
「イトカワ」 「リュウグウ」



新井康平 名誉教授

宇宙の片隅、地球の片隅、
日本の片隅でも

志(ビジョン)さえあれば、
いい仕事ができる!



地球誕生から...約46億年

人類誕生から...約300万年

私の誕生から...〇〇年

小さな存在なりに
夢をもち進歩していくのみ



「校長の話」では、宇宙探査に携わる佐賀大学の先生の話をもとに、以下のような講話を行いました。

「これがなんだかわかる人はいますか。宇宙探査機のはやぶさ1号と2号です。調査した小惑星は『イトカワ』と『リュウグウ』と呼ばれています。この探査に関わっている先生の話も、先日聞くことができました。新井康平 佐賀大学名誉教授、なんと佐賀の先生でした。JAXAの仕事もやり、NASAとアリゾナ大学の惑星探査にも加わられている先生で、そんな人が佐賀にいたなんて驚きましたし、とても誇りに思いました。『視線でパソコン入力する』システムを作った人としても有名です。

『はやぶさプロジェクト』ってお金も労力も大変なものだそうですが、なんのためにそんなことをしているのでしょうか。採取したサンプルを分析することで、太陽系の起源や進化の解明、生命の原材料物質の解明をするためだそうです。宇宙の片隅の地球の、その片隅の日本の、そのまた片隅の佐賀の地でも、そんな大きなことができるんだ。人間はどこにいたって、志をもってさえいればいい仕事ができるんだなど改めて思い知らされました。

新井名誉教授によると、地球をくまなく見る「地球観測衛星」が50機飛んでいるそうです。なんのためかということ、地球環境のためということでした。観測衛星と交信したりしてデータを集める基地局が佐賀大学の工学部の中にあるそうです。夜中に緑色のレーザー光線が宇宙に向かって伸びているのが見られたら、それだそうです。

新型コロナウイルスで世界中がステイホームしたときの大気の状態が大きく好転したというニュースがありましたが、そのデータもこのプロジェクトによるものでした。

地球誕生から約46億年、人類誕生から約300万年、君たちは生まれてから13~15年です。宇宙や地球の歴史からするとほんのちっぽけな存在ですね。しかし、小さな存在なりに夢や目標を

もって活動することが、自分の進歩につながり、ひいては人間の進歩や社会のためになるということを考えさせられました。この2学期に、みなさんも自らを伸ばすための目標をもち、チャレンジしてください。」

<表彰>

・佐賀県中学校夏季剣道練成会 男子団体 優勝 剣道部

◇給食室改修にともなって◇

昨年度から予定されていた本校の給食室改修工事が、8月から始まりました。駐車場が狭くなったり、給食内容がこれまでと変わったりと、いろいろご迷惑をおかけしています。11月までしばらく辛抱し、また温かい給食の再開を待ち望んでいます。

